

山口大学吉田地区廃棄物集積場使用手引き (2016年度)

山口大学 大学研究推進機構 総合科学実験センター排水処理施設
Center for Waste Water Treatment, Science Research Center,
University Services and Research Centers Yamaguchi University
http://ds22cc.yamaguchi-u.ac.jp/~haisui/index_j.html



目次

1. はじめに	2
2. 廃棄物集積場の使用手順	3
3. 危険物表示表	4
4. 危険物の保管配置図	5
5. 山口大学吉田地区廃棄物集積場使用申し合わせ	6
6. 廃棄物集積場使用についての注意事項細則	7
7. 危険物第四類物質一覧表	7
8. 廃棄物集積場使用申込表 (様式1) 危険物有資格者登録表	8
9. 学部別危険物 (廃液) 保管及び廃棄物集積場の鍵保管記録簿 ((様式2) 記入例)	9
10. 危険物 (廃液) 保管記録簿 ((様式3) 記入例)	10
11. 廃棄物集積場見回り記録簿 (様式4)	11
12. その他資料 (危険物 指定数量とは)	12



2. 廃棄物集積場の使用手順

1) 登録および義務

廃棄物集積場（以下「集積場」と略す）は、危険物有資格者の立ち会いのもとに有機系廃液を搬入することができる。

- ・利用者は所定の様式（様式1）に必要事項を記入し、排水処理施設へ年度当初提出する。
- ・集積場に廃液を搬入した場合には、集積場内を見回る義務が生じる。

2) 搬入

- ・有機系廃液として次の回収日に搬出するために必要な有機系廃液の廃液カードを記入する。同時に廃液の種類（消防法区分による区分）を確認し、危険物表示表（p4）を作成する。
- ・有機系廃液搬入の旨を排水処理施設（電話 5137, fuji@yamaguchi-u.ac.jp）に連絡し（責任者氏名、学部、学科、所属、廃液の量、その他）、保安監督者の許可を得る。
- ・学部の事務室（総務・予算係）で集積場の鍵を受取り、鍵の貸出記録簿（様式2）を記入する。
- ・危険物有資格者の立ち会いの下に集積場の決められた位置に危険物（廃液）を置く（p5）。また、有機系廃液カードおよび危険物表示表（p4）が張り付けてあるか確認する（図3）。
- ・危険物有資格者は集積場の記録用紙（様式3）に必要事項を記入し、危険物毎の指定数量を確認する。この時指定数量を超える場合は速やかに保安監督者に連絡する
- ・集積場の鍵を閉め元の位置に戻す。学部の記入簿に鍵の貸出記録簿（様式2）を記入する。

3) 見回

集積場に有機系廃液を搬入した場合には、集積場内を見回る義務が生じる。見回りは廃液を搬入した研究室が交代で1週間に1回程度、廃液回収日まで行うこととする。見回は集積場内部を観察し、容器からの液漏れ等が無いかを確認し、記録簿（様式4）に記入する。詳細については保安監督者が決める。

4) 搬出

- ・有機系廃液の回収日には、該当する廃液を回収時間前までに倉庫から、搬入者の責任で搬出する。有機系廃液の引渡時には排水処理施設職員の有機系廃液のチェックに立ち会う。

<参考>

ここでの「危険物有資格者」は消防法危険物取扱資格者（甲種または乙4種）である

3. 集積場使用についての注意事項細則

危険物（廃液）を集積場に搬入するには、以下のことに特に注意しなければならない。

1. 危険物（廃液）の液漏れについては、細心の注意を払わなければならない。特に危険物が床に漏れないような容器の選択（亀裂、破損、錆等の点検）すること。
2. 集積場使用者は安全を考える上で集積場に廃液を搬入した後、廃液が無い場合を除いて集積場の内部の点検（見回り当番）を行う責務を負う。見回り当番については保安監督者が具体的なことを定めて関係者に連絡する。
3. 危険物（廃液）は、必ず搬入した次の有機系廃液回収日に、搬入者自身が廃液として出すようにしなければならない。この時搬入者は、必要な書類を整備して、学部別に登録番号順に並べてた上で、排水処理施設職員による廃液のチェックを受ける。特別の理由が無いにもかかわらず、危険物（廃液）を必要以上の長い期間集積場に貯蔵しない。
4. 危険物を有機系廃液として出す場合は、登録番号を各学部から受け取り、有機系廃液表示表および危険物表示表を容器にはって貯蔵すること。図3参照
5. 危険物（廃液）は集積場内に学部別、危険物の分類毎に原則として置く。危険物（廃液）の置く位置は別に定める。

4. 危険物表示表 (例)

1. 廃液登録番号	総合科学一 1
2. 搬入日時	2016年4月18日18時
3. 学部 学科等	総合科学実験 排水処理子施設
責任者氏名	藤原 勇
電話	5137
4. 危険物の種類	アルコール類
5. 薬品名および含有量等	エチルアルコール 100%
6. 搬入廃液量	9リットル
7. 容器	ポリタンク10リットル

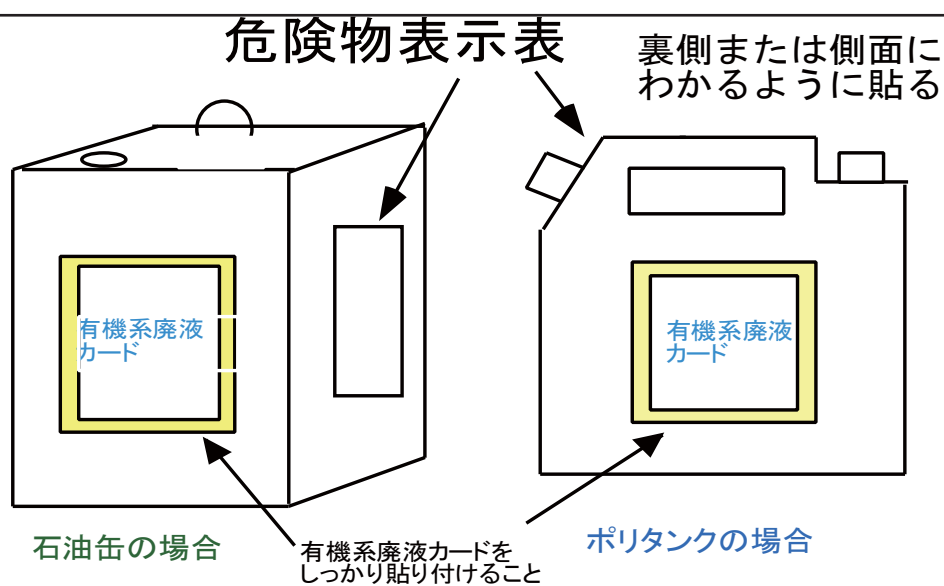


図3 有機系廃液カードおよび危険物表示表の貼り付け方

5. 指定数量とは

危険物には、危険物の類、品名及び性状に応じた数量が定められています。この数量は、消防法令では「指定数量」とよび、危険物の規制（実験室での保管量）をする上で基準値として使われています。

指定数量以上の危険物は、危険物貯蔵所、危険物製造所、危険物取扱書以外では貯蔵、取り扱いできず、消防法に基づき市町村等の許可を受けなければなりません。

指定数量未満の貯蔵、取り扱いの際も、指定数量の5分の1以上の場合は市町村条例に基づき届け出が必要となります。所轄の消防署に訪ねる必要があります



図1 スイッチの位置



図2 奥側の保管場所

左 電灯 右 換気扇

6. 山口大学吉田地区廃棄物集積場使用申し合わせ

1. 吉田地区廃棄物集積場（以下「集積場」という。）の管理・運営のため、以下の事項を定めるものとする。
2. 集積場に保管する危険物の指定数量は、表1に示す物とする。

表1 山口大学吉田地区廃棄物集積場の指定数量

類別	品名及び性質	指定数量	
第4類	第1石油類	非水溶性液体	800L
		水溶性液体	800L
	アルコール類		400L
	第2石油類	非水溶性液体	100L
		水溶性液体	100L
	第3石油類		100L
	第4石油類		300L
	動植物油類		100L

3. 集積場の管理・運営に関する主任者として保安監督者を置く。保安監督者は、危険物の取扱における保安の監督・指導および集積場の実態を把握する。保安監督者は指定数量の数値に変更があった場合にはその都度速やかに関連学部等に連絡する。
4. 保安監督者は、吉田地区学内の危険物取扱の有資格者が排水処理センター長から任命される。
平成28年度保安監督者は排水処理施設長 藤原 勇 とする。
5. 集積場を使用する者は、保安監督者に申し出た後、学部等名、責任者名、連絡先、危険物の種類および数量を連絡し、保管場所の指定を受ける。集積場の鍵は排水処理施設、理学部事務室、農学部事務室の3カ所に保管する。
6. 危険物は、保管に適切な容器に学部等名、危険物の種類および数量を明記し、指定された場所に保管する。
7. 2種類以上の品名が混入している危険物は指定数量が少量の品名を記入する。
8. 危険物の集積場への搬入の際には、保安監督者に届け出、搬入者は集積場の鍵を所属事務室に取りに行く。搬入後、搬入者は日時、学部名、危険物の種類および数量及び搬入者を搬入簿（様式1）に記録する。搬入簿（様式1）は集積場に置く。
9. 危険物の取扱は、危険物取扱の有資格者または、危険物取扱者の立ち会いのもとで行う。
10. 危険物取扱の有資格者及び危険物取扱者を年度最初に保安監督者に届けておく。
11. 集積場内および周辺での火気の使用はしない。
12. 集積場内には指定されたもの以外は貯蔵しない。
13. 異常を発見したときには、直ちに保安監督者まで連絡する。
14. その他：わからないことは保安監督者に相談する。
15. 危険物は、排水処理施設規則等に決められていることを遵守して取扱う。

平成28年4月1日

排水処理分野長	石黒 勝也
排水処理等安全管理委員会委員	塩田 正俊（教育学部委員）
排水処理等安全管理委員会委員	祐村 恵彦（理学部委員）
排水処理等安全管理委員会委員	荒木 英樹（農学部委員）
排水処理施設長	藤原 勇

7. 危険物第四類物質一覧表（引火性液体）

品名		物質名（一部）
特殊引火物		ジエチルエーテル，二硫化炭素，アセトアルデヒド，酸化プロピレン
第一石油類 引火点が21℃未満	非水溶性液体	ガソリン，ベンゼン，トルエン，メチルエチルケトン，酢酸エチル
	水溶性液体	アセトン，ピリジン
アルコール類	炭素数3までの飽和1価アルコール	メチルアルコール，エチルアルコール，n-プロピルアルコール，イソプロピルアルコール
第二石油類 引火点が21℃以上70℃未満	非水溶性液体	灯油，軽油，キシレン，クロロベンゼン，クロロベンゼン
	水溶性液体	酢酸
第三石油類 引火点が70℃以上200℃未満	非水溶性液体	重油，クレオソート油，アニリン，ニトロベンゼン
	水溶性液体	エチレングリコール，グリセリン
第四石油類 引火点が200℃以上250℃未満		ギヤー油，シリンダー油，タービン油，可塑剤
動植物油類		ヤシ油，パーム油，オリーブ油，ヒマシ油，落花生油，ナタネ油，米ぬか油，ゴマ油，綿実油，トウモロコシ油，ニンジン油，大豆油，ヒマワリ油，キリ油，イワシ油，アマニ油，エノ油

1気圧において20℃で液体

危険物

類別	品名及び性質	指定数量
第1類 酸化性固体	第一種酸化性固体	50 kg
	第二種酸化性固体	300 kg
	第三種酸化性固体	1000 kg
第2類 可燃性固体	硫化りん，赤りん，硫黄	100 kg
	第一種可燃性固体	100 kg
	鉄粉	500 kg
	第二種可燃性固体	500 kg
	引火性固体	1000 kg
第3類 自然発火性物質及び禁水性物質	カリウム，ナトリウム，アルキルアルミニウム，アルキルリチウム	10 kg
	第一種自然発火性物質及び禁水性物質	10 kg
	黄りん	20 kg
	第二種自然発火性物質及び禁水性物質	50 kg
	第三種自然発火性物質及び禁水性物質	300 kg
	特殊引火物	50 L
第4類 引火性液体	第1石油類 非水溶性液体	200 L
	水溶性液体	400 L
	アルコール類	400 L
	第2石油類 非水溶性液体	1000 L
	水溶性液体	2000 L
	第3石油類 非水溶性液体	2000 L
	水溶性液体	4000 L
	第4石油類	6000 L
動植物油類	10000 L	
第5類 自己反応性物質	第一種自己反応性物質	10 kg
	第二種自己反応性物質	100 kg
第6類 酸化性液体	過塩素酸，硝酸（90%以上）	300 kg

危険物（廃液）利用申込（記入例）

（様式1） 平成28年度：廃棄物貯蔵施設利用申込表

	学部等	学科等	氏名	電話	身分（学生、職員）	危険物免許の種類（甲、乙4）	免許の有効期限	備考
1	総合科学	排水処理施設	藤原 勇	5137	職員	甲	2016年3月	記入例
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								

免許を持たない方は、有資格者として立ち会ってもらえる有資格者の氏名及び免許の種類を備考欄にお書き下さい。

危険物の試験を受けて、資格取得見込みの方も氏名及び免許の種類を備考欄に（取得見込み）お書き下さい。

提出先 排水処理施設 藤原

危険物有資格者登録表

危険物資格登録簿

平成28年度：危険物有資格者登録表

	免許の種類（甲、乙4）	有効期限	学部	学科等	氏名	身分（学生、職員）	備考
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

学部別危険物（廃液）保管及び廃棄物倉庫の鍵保管記録簿

(様式2) 学部別危険物（廃液）保管及び廃棄物倉庫の鍵保管記録簿 記入例

単位はリットル

番号	鍵の貸出・返却日時		学科等	責任者氏名	電話	薬品名および含有量	容		学務部の 廃液 登録番号	第1石油類		第2石油類		アルコール類	第3石油類	第4石油類	動植物油類	備考
	貸出	返却					種類	容量		非水溶性液体 撥入量	水溶性液体 撥入量	非水溶性液体 撥入量	水溶性液体 撥入量					
1	4月25日15:00	4月25日16:00	化学科	吉田花子	5700	真空ポンプ油100%	ポリ容器	20	理-1						18			記入例
2	5月13日14:00	5月13日16:00	化学科	吉田花子	5700	キシレン100%	石油缶	18	理-2		16							記入例
3	5月13日17:00	5月13日18:00	化学科	山口花子	5702	酢酸10%、水90%	石油缶	18	理-3			16						記入例
4	5月15日11:30	5月15日12:00	生物	広中花子	5703	エタノール100%	ポリ容器	10	理-4				9					記入例
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		

(様式3) 危険物(廃液)保管記録簿(記入例)

単位はリットル

番号	日時	学部	学科等	責任者氏名	電話	薬品名および含有量	容器		学部毎の 廃液量 登録番号	第1石油類		第2石油類		アルコール類	第3石油類	第4石油類	動植物油類	備考
							種類	容量		非水溶性液体 搬入量	水溶性液体 搬入量	非水溶性液体 搬入量	水溶性液体 搬入量					
1	4月10日10:00	総合科学	排水処理センター	藤原 勇	5137	メタノール90%	ポリ容器	10	総合-1	0	0	0	0	0	0	0	0	記入例
2	4月25日15:00	理	化学科	吉田花子	5700	真空ポンプ油100%	ポリ容器	20	理-1	0	0	0	0	0	18	18	0	記入例
3	5月10日17:00	農	農学科	山口太郎	5800	トルエン100%	石油缶	18	農-1	16	16	0	0	0	18	18	0	記入例
4	5月12日15:00	農	農学科	古賀太郎	5801	アセトン100%	ポリ容器	10	農-2	16	9	9	0	0	18	18	0	記入例
5	5月13日14:00	理	化学科	吉田花子	5701	キシレン100%	石油缶	18	理-2	16	9	9	16	0	18	18	0	記入例
6	5月13日17:00	理	化学科	山口花子	5702	酢酸10%、水90%	石油缶	18	理-3	16	9	9	16	16	16	16	0	記入例
7	5月14日10:30	教育	化学	加藤次郎	5901	グリセリン60%、水40%	ポリ容器	10	教育-1	16	9	9	16	4	18	16	0	記入例
8	5月14日13:30	教育	生物	河合三郎	5902	やし油100%	石油缶	18	教育-2	16	9	9	16	4	18	16	16	記入例
9	5月15日11:30	理	生物	広中花子	5703	エタノール100%	ポリ容器	10	理-4	16	9	9	16	4	18	16	16	記入例
10	5月15日16:30	農	獣医	丸本史郎	5804	酢酸エチル100%	石油缶	18	農-3	12	28	9	16	4	18	16	16	記入例
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20										800L	800L	100L	100L	400L	100L	300L	100L	指定数量

注意 搬入合計量が指定数量を越えた場合はすみやかに保安監督者まで連絡を取る

第1石油類 非水溶性液体(最大800リットル)

第1石油類 水溶性液体(最大800リットル)

アルコール類(最大400リットル)

第2石油類 非水溶性液体(最大100リットル)

第2石油類 水溶性液体(最大100リットル)

第3石油類 水溶性液体(最大100リットル)

第4石油類(最大100リットル)

動植物油類(最大100リットル)

危険物は容器1つに対して1行記入してください

保安監督者(排水処理施設) 藤原 電話 (5137)